

確率の求め方の工夫

確率を求めるときに、起こり得る場合のすべてを、表や樹形図を使って調べることができる。

- 1 1枚を硬貨を2回投げるとき、2回とも表が出る確率を求めなさい。

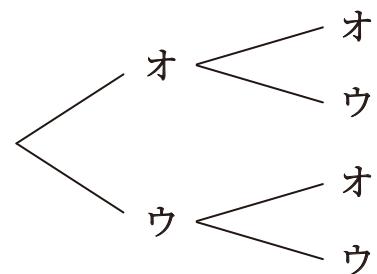
表をオ、裏をウとする

表を使って調べる

1回目	2回目	オ	ウ
オ		オ・オ	オ・ウ
ウ		ウ・オ	ウ・ウ

樹形図を使って調べる

1回目 2回目



起こり得る場合は全部で4通りある。2回とも表が出る場合は1通りある。

求める確率は $\frac{1}{4}$ となる。

- 1 5円の硬貨1枚と、10円の硬貨1枚を同時に投げるとき、次の確率を求めなさい。

① 5円の硬貨が表、10円の硬貨が裏となる確率

② 2枚とも表となる確率

③ 少なくとも1枚が表となる確率

確率の求め方の工夫

確率を求めるときに、起こり得る場合のすべてを、表や樹形図を使って調べることができる。

- 1 1枚を硬貨を2回投げるとき、2回とも表が出る確率を求めなさい。

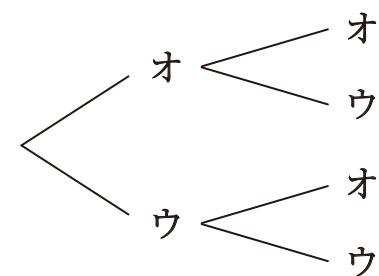
表をオ、裏をウとする

表を使って調べる

2回目		オ	ウ
1回目	オ	オ・オ	オ・ウ
ウ	ウ・オ	ウ・ウ	

樹形図を使って調べる

1回目 2回目



起こり得る場合は全部で4通りある。2回とも表が出る場合は1通りある。

求める確率は $\frac{1}{4}$ となる。

- 1 5円の硬貨1枚と、10円の硬貨1枚を同時に投げるとき、次の確率を求めなさい。

- ① 5円の硬貨が表、10円の硬貨が裏となる確率

$\frac{1}{4}$ 起こりえる場合は全部で4通りあり、

5円の硬貨が表、10円の硬貨が裏となる
場合は1通りなので、求める確率は $\frac{1}{4}$ となる。

- ② 2枚とも表となる確率

$\frac{1}{4}$ 起こりえる場合は全部で4通りあり、

2枚とも表となる場合は1通りなので、求める確率は $\frac{1}{4}$ となる。

- ③ 少なくとも1枚が表となる確率

$\frac{3}{4}$ 起こりえる場合は全部で4通りあり、

少なくとも1枚が表となる場合は(オ,オ)(オ,ウ)(ウ,オ)の
3通りなので、求める確率は $\frac{3}{4}$ となる。

